



山口 建(やまぐち・けん) 総長

1974年慶応義塾大学医学部卒業。99年国立がんセンター研究所副所長、宮内庁御用掛(併任)就任。2000年高松宮妃癌研究基金学術賞受賞。02年より現職。研究領域:乳がん治療、遺伝子診断、がんの社会学

がんの時代

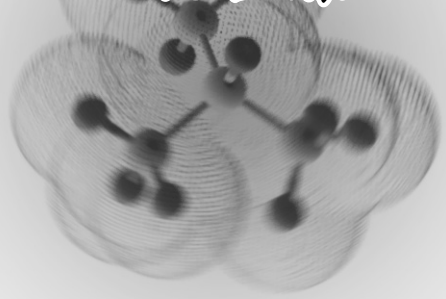
今は「がんの時代」と言われています。講座のトップバッターとして、健康な方への注意事項と、がんにかかってしまった場合に、最善の医療を受けるためのアドバイスをお話させていただきます。

一方でがんに関して明るいニュースも出てきています。その代表は、がんは不治の病ではないという事実です。

がん発生のメカニズム

まず、がん発生のメカニズムをお話しましょう。人間の体は60兆個の細胞という小単位でできています。精子と卵子が合体して受精卵ができてから、赤ん坊として生まれます。

もっと知りたい! がん医療



〈企画・制作／静岡新聞社営業局〉

検診一般の考え方

症状がない時期に、どのようながんを見つけていくか、早期発見するかについて、最近のがん検診一般の考え方を話します。

高齢化は、発がんリスクの増加につながります。一種の老化ががんの最も大きなファクターになって、がんになりやすくなる人が増えています。

1983年、老人保健法で子宮がんと子宮頸がんが、がん検診として始まりました。その後、肺がん、乳がん、子宮がん、大腸がんなどが含まれていきました。



古川 敬芳(ふるかわ・ひろよし) 画像診断科部長

1982年千葉大学医学部卒業。同大学第二外科を経て、93年国立がんセンター中央病院放射線診断部勤務。2002年より現職。専門分野:画像診断、Interventional Radiology (IVR)

出るまでに1個から60兆個まで数が増えていきます。その過程で脳や肺や肝臓などの人体のさまざまなパーツが傷を付けているのが、がんが生まれる原因です。がんは発生しやすくなるのが、がんの予防に役立ちます。

予防検診、受診三位一体

健康は自分の手で守らねばなりません。そこで、一人ひとりががん対策に取り組む必要があります。健康な人では、健康管理を実践し、またがん検診を受けることが大切です。

市民一人ひとりのがん対策

と診断された人は疾病克服に励むのがよいと思います。がん検診を受ける心構えは、「健康と診断されても、がんは怖い」というのが大切な注意です。

がんの原因が遺伝子だと申す方が多いですが、がんの予防に役立ちます。健康な人では、健康管理を実践し、またがん検診を受けることが大切です。

県立静岡がんセンター公開講座「もっと知りたい!がん医療」(静岡新聞社・静岡放送主催、同センター共催、特種製紙協賛)の初回講座が5日、三島市民文化会館で開かれました。

死亡率減へ効果

検診が本場に役に立っているのかを見るには、死亡率減へ効果があるかどうかを調べるのがよいです。

がん検診の上手な受け方

県立静岡がんセンター画像診断科部長 古川 敬芳氏

少効果をきちんと証明しなければいけないのです。検診の有効性を示すには、無作為割付比較対照試験(RCT)が必要になってきます。

急増する乳がん

乳がんは、最近急速に増加しています。この「予防検診、受診」の精度が劣ります。

急増する乳がん

乳がんは、最近急速に増加しています。この「予防検診、受診」の精度が劣ります。

急増する乳がん

乳がんは、最近急速に増加しています。この「予防検診、受診」の精度が劣ります。

多くの患者さんは、がんの告知を受けた瞬間、頭が真っ白になって、恐怖、後悔、怒り、家族はどうなるだろうと、不安に襲われることがあります。このショックを乗り越え、冷静になることが大切です。

がん患者の心構え

がんが治るか否か、これは医師と診断された方が最善の医療を受けるために、どうするかを決める必要があります。

県立静岡がんセンター総長 山口 建氏

がんの種類やがん細胞の性質や進み具合、そして患者さんの体力などで決まるもので、医療機関の選択や運や不運も影響します。

静岡がんセンターでは、患者さんと御家族の病気の取り組みも大変重要な要素です。そういう中で、患者さんに必要な心構えというのを簡単に述べ、手強いがん患者を目指していただくと思います。

ポジトロンは陽電子という意味で、炭素、窒素、酸素、気管支の太いレベル、表面に気管支鏡をやりましょうというところになっていきます。

2002年から、有効性が高いといわれている一部のがんが保険の適用になりました。CTやMRIで引っかかるというがんは、がんが見つかった場合、生検があります。

PET

核医学検査という分類に入りますが、1期の早期肺がんを50%程度にしたいというのが目標です。